

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	べと病	白さび病	白斑病	白核病	黒斑病	炭疽病	根こぶ病	根くびれ病	ビシウム腐敗病	黄化病	苗立枯病	尻腐病	黒斑細菌病	軟腐病	
マスタピース水	NC		1	-															◎	◎
スターナ水	31		7	3															◎	◎
トップジンM水㊟	1		7	2				◎	◎		◎									
ベンレート水㊿	1		7	2				◎	◎		◎									
エトフィンFL	22		7	3		◎														
			*c	1								◎								
アフェットFL	7		1	3				◎	◎	◎								◎		
パレード20FL	7		*f	1	☆			◎								®				
				1	3			◎	◎	◎										
ケンジャFL	7		1	3				◎	◎											
カナメFL	7	劇	1	3					◎									◎		
アミスター20FL	11		1	4		◎	◎	◎		◎										
スクレアFL	11		1	3					◎		◎									
ストロビーFL	11		3	3		◎		◎		◎										
ファンタジスタ顆水	11		3	3				◎	◎	◎	◎									
メジャーFL	11		3	3		◎	◎	◎		◎										
オラクル顆水	21		*c	2								◎								
				1	☆							◎								
オラクル粉	21		*a	2								◎								
			*c									◎		◎						
ライメイFL	21		7	4		◎	◎													
ランマンFL	21		3	4		◎	◎							◎						
			14	1									◎							
			*b	1	☆								◎							
フロンサイドSC	29		*c	1								◎					◎		◎	
フロンサイド粉	29		*a	1								◎			◎					
ロブラール水	2		14	3				◎	◎	◎										
リゾレックス水	14		14	3														◎		
リゾレックス粉	14		*c	1														◎		
ポリオキシシナL溶	19		7	5						◎										
フェスティバル水	40		3	3		◎														
レーバスFL	40		7	3		◎														
オリゼメート顆水	P2		*e	1	☆														◎	◎
ネビジン粉	36		*a	1								◎								
ネビリュウ粉粒	36		*a	1								◎								

ハクサイ

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条数	ベと	白さ	白斑	菌核	黒斑	炭疽	根こぶ	根くびれ	ビシウム腐敗病	黄化	苗立枯	尻腐	黒斑細菌	軟腐
ピシロックFL	U17		1	3		◎	◎							◎					
バリダシン液5	U18		3	3														◎	◎
キノンドーFL	M1		30	5															◎
ヨネポン水	M1		*d	4		◎													◎
ジマンダイセン水	M3		30	1		◎		◎		◎									
ペンコゼブ水	M3		30	1		◎		◎		◎									
オーソサイド水80	M4		7	5		◎		◎		◎	◎					◎			
ダコソイル粉	M5		*a	1								◎	◎						
ダコニール1000FL	M5		7	2		◎	◎	◎		◎									
フォリオゴールドFL	4・M5		7	2		◎	◎							◎					
リドミルゴールドMZ顆水	4・M3		30	1		◎								◎					
カセット水	31・24		21	2														◎	◎
マテリーナ水	31・25		14	3															◎
ソタールWDG	31・14		14	3													◎		◎
ナレート水	31・M1		30	3		◎		◎		◎									◎
ダコレート水⊕	1・M5		7	2		◎			◎	◎									
ジャストフィットFL	43・40		7	3		◎	◎												
シグナムWDG	7・11		7	3		◎	◎	◎	◎	◎	◎						◎		
ベジセイバーFL	7・M5		7	2		◎	◎	◎	◎	◎									
ゾーベックエンカンティアSE	11・49		14	2		◎													
ホライズンDF	11・27		14	3		◎	◎												
アミスターオブティFL	11・M5		7	2		◎	◎	◎		◎									
ドーシャスFL	21・M5		7	2		◎	◎	◎		◎									
カンパネラ水	40・M3		30	1		◎													
ベネセット水	40・M3		30	1		◎													
カーニバル水	40・M5		7	2		◎		◎		◎									
プロポーズ顆水	40・M5		7	2		◎	◎	◎		◎									
カーゼートPZ水	27・M3		30	1		◎													
ブリザード水	27・M5		14	2		◎													
シトラノーFL	M1・M5		30	2		◎		◎											◎

注:花芯ハクサイは農薬取締法上はサントウサイ…非結球アブラナ科葉菜類の項を参照のこと

⊕:チオファネートメチル含有剤 ◎:ベノミル含有剤 ⊕を使用した場合には同じ作での⊕は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

*a:播種又は定植前 *b:定植前日～当日 *c:定植前 *d:結球開始まで(但し、収穫14日前まで) *e:定植時 *f:育苗後半～定植当日 ⊕:リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

ハクサイ

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	カ ブ ラ ハ バ チ 類	コ ナ ガ シ 類	ア オ タ バ コ シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ シ 類	ウ キ シ ノ ミ ハ ム シ 類	ウ キ シ ノ ミ ハ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ナ メ ク ム リ 類	カ タ ツ ジ リ 類	そ の 他 害 虫	
スピノエース顆水	5		3	3				◎	◎	◎	◎		◎		◎							
サブリナFL	11A		*c	-					◎	◎	◎											
ジャックポット顆水	11A		*e	-					◎	◎	◎	◎										
ゼンターリ顆水	11A		*c	-					◎	◎	◎											
チューレックス顆水	11A		*e	-					◎	◎	◎	◎										
スラゴ粒 ^{*1}	-		*f	-																◎	◎	
デナボン5%ベイト粒	1A		21	3									◎	◎				コ				ダ
オルトラン水	1B		30	1		◎		カ	◎	◎	◎	◎	◎									
オルトラン粒	1B		*a	1		◎			◎	◎	◎	◎			◎							
サイアノックス乳	1B		14	2		◎			◎	◎	◎	◎	◎				マ	成				
ジェイエース溶	1B		30	1		◎			◎	◎	◎	◎	◎									
ジェイエース粒	1B		*a	1		◎			◎	◎	◎	◎										
ダイアジノン粒5	1B		*b	1											◎		◎					ケ
			*a												◎							
ダイアジノン粒10	1B	劇	*a	1											◎							
ネキリエースK粒	1B		*k	1											◎		◎					
ネマキック粒	1B		*s	1																		セ
マラソン乳	1B		1	5		◎	◎	カ	◎													
アディオソ乳	3A		7	5		◎			◎	◎	◎				◎							ハ
ガードベイトA粒	3A		*d	5											◎							
サイハロン乳	3A	劇	14	3		◎			◎	◎	◎											
テルスター水	3A		21	4		◎			◎	◎	◎											
トレボン乳	3A		7	3		◎			◎	◎	◎											
トレボンMC	3A		7	3		◎					◎											
フォース粒	3A	劇	*a	1											◎							
マブリック水20	3A	劇	21	2		◎			◎	◎	◎						マ					
アクタラ顆溶	4A		*g	1	☆	◎																
			3	3		◎																
アクタラ粒5	4A		*g	1		◎			◎	◎												
			*i						◎													
アドマイヤー顆水	4A	劇	7	2		◎																
アドマイヤーFL	4A	劇	7	2		◎																
アドマイヤー1粒	4A		*a	1		◎																
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		3	2		◎											◎					サ

ハ
ク
サ
イ

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	カ ブ ラ ハ バ チ 類	コ ナ ガ シ 類	ア オ タ バ コ ガ シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ シ 類	ネ キ リ ム シ 類	ウ ワ バ シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	コ オ ロ ギ 類	ナ メ ク ジ 類	カ タ ツ ム リ 類	そ の 他 害 虫	
ダントツ溶	4A		1	2	◎			◎	◎													
ダントツ粒	4A	*f		▲	◎									◎								
		*g	1		◎		◎	◎						◎	◎							
		*a			◎		◎	◎						◎								
モスピラン顆溶	4A	劇	14	3	◎		カ	◎	◎													
モスピラン粒	4A		*a	1	◎			◎	◎													
			*h	1	◎			◎	◎					◎								
トランスフォームFL	4C		3	3	◎																	
フィールドマストFL	4E		1	2			◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎					サ	
ディアナSC	5		1	2		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
アニキ乳	6		3	3			◎	◎	◎	◎			◎	◎		◎					サ	
アフーム乳	6		7	3				◎	◎	◎	◎										ハ	
コルト顆水	9B		3	3	◎																	
コテツFL	13	劇	1	2			カ	◎	◎		◎											
パダンSG溶	14	劇	7	3	◎		◎	◎	◎											◎		
リーフガード顆水	14	劇	7	3	◎			◎	◎					◎						◎	◎	
アタブロン乳	15		7	4				◎	◎		◎	◎			マ							
カスケード乳	15		7	2				◎	◎		◎											
ノーモルト乳	15		7	2				◎	◎		◎				マ							
マッチ乳	15		7	3				◎	◎													
ファルコンFL	18		3	2					◎		◎											
マトリックFL	18		7	4							◎											
ロムダンFL	18		1	2					◎				◎									
ハチハチFL	21A	劇	14	2	◎			◎	◎					◎		◎				◎	サ	
ハチハチ乳	21A	劇	14	2	◎			◎	◎					◎						◎		
トルネードエースDF	22A		7	2			◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎							
ファイントリムDF	22A		7	2			◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎							
アクセルFL	22B		1	3			◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎		◎					サ	
アクセルバイト粒	22B		7	3									◎	◎						◎		
モベントFL	23		7	3	◎				◎													
フェニックス顆水	28		1	3				◎	◎	◎	◎	◎										
プリロッソ粒オメガ	28	*m	1	△	◎			◎	◎					◎								
		*Q	1		◎			◎	◎					◎								
プレバソンFL5	28	*m	1	☆				◎	◎	◎	◎			◎								
		1	3				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎								
プレバソン粒	28	*m	1	△					◎					◎								
		*Q	1						◎	◎				◎								

ハクサイ

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	カ ブ ラ ハ バ チ 類	コ ナ ガ シ 類	ア オ タ バ コ ガ シ	ヨ ト ウ ム シ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ シ	ネ キ リ ム シ 類	ウ ワ バ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類	コ オ ロ ギ 類	ナ メ ク ジ 類	カ タ ツ ム リ 類	そ の 他 害 虫		
ベネビアOD	28		1	3		◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎								
ベリマークSC	28		*m	1	☆	◎		◎	◎			◎	◎				◎							
ヨーバルFL	28		1	3		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎										
			*m	1	☆	◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎										
ウララDF	29		1	2		◎																		
プロフレアSC	30		1	3				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎						サ	
ファインセーフFL	34	劇	7	2					◎	◎														
ブレオFL	UN		7	2					◎	◎	◎													
ナメクリーン3	-		3	2																	◎	◎		
ナメトックスハウス	-		*r	6																	◎			
ハクサップ水	1B・ 3A	劇	1	5		◎		カ	◎	◎	◎		◎			マ								
アベイル粒	4A・ 28		*m	1		◎			◎	◎					◎									
キックオフ顆水	4A・ 28		*p	1	☆	◎			◎	◎		◎		◎										
ジュリボFL	4A・ 28		*m	1	☆	◎		カ	◎		◎		◎	◎			◎							
			3	3		◎			◎		◎		◎	◎										
ミネクトデュオ粒	4A・ 28		*t	1		◎		カ	◎	◎					◎		◎							
			*a	1		◎			◎	◎						◎								
			*i	1						◎														
アフアームエクセラ顆水	6・ 15		7	3					◎	◎	◎		◎											
アクセルキングFL	21A・ 22B	劇	14	2		◎	ネ		◎	◎	◎			◎									ナ	
ヨーバルターボFL	23・ 28		7	3		◎			◎	◎	◎		◎	◎										

注:花芯ハクサイは農薬取締法上はサントウサイ
… 非結球アブラナ科葉菜類の項を参照のこと。

*1:「ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等」での登録。

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

△:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

▲:覆土後セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から散布する。

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

- *a: 定植時
 - *b: 播種時又は定植時
 - *c: 発生初期(但し収穫前日まで)
 - *d: 播種時～生育初期
 - *e: 発生初期(但し結球開始前まで)
 - *f: 播種時
 - *g: 育苗期後半
 - *h: 定植前日～定植当日
 - *i: 播種前
 - *k: 播種時又は定植時～生育初期(但し収穫14日前まで)
 - *m: 育苗期後半～定植当日
 - *o: 定植前まで
 - *p: 定植前日～定植時
 - *Q: 育苗期後半～定植時
 - *r: 発生時
 - *s: 播種又は定植前
 - *t: 播種覆土後～育苗期後半
 - *u: 播種覆土後～定植当日
- カ:カブラハバチ ケ:ケラ コ:コオロギ サ:ダイコンサルハムシ(ダイコンハムシ)
セ:ネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウ ダ:ダンゴムシ
ナ:ナモグリバエ ネ:ネギアザミウマ ハ:ハクサイダニ マ:タマナギンウワバ
若:若～中齢幼虫 成:成虫

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 ストロビーフロアブル 3000倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 ランマンフロアブル 2000倍 リドミルゴールドMZ (顆水) 1000倍 	<p>各種アブラナ科野菜に発生する。</p> <p>9月中旬より発生しはじめ10～11月にかけてまん延する。特に低温多湿のときに多発しやすい。</p>
白さび病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を認めたら次のいずれかの薬剤を初期に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 フォリオゴールド (FL) 1000倍 ホライズンドライフロアブル 2500倍 	
白斑病・黒斑病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 600倍 ストロビーフロアブル 3000倍 ダコニール1000 (FL) 1000倍 ロプラール水和剤 1000～1500倍 	<p>いずれの病気も周年発生するが、特に晩秋から初冬にかけて雨の多い年に多発しやすい。各種アブラナ科植物に発生する。</p>
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> 常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。 畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 <ul style="list-style-type: none"> オラクル粉剤 <ul style="list-style-type: none"> 全面処理 30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a ネビジン粉剤 <ul style="list-style-type: none"> 全面処理 20～30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a フロンサイド粉剤 <ul style="list-style-type: none"> 全面処理 30～40kg/10 a 作条処理 15～20kg/10 a 定植前日～当日に次の薬剤をセル苗に灌注する。 <ul style="list-style-type: none"> ランマンフロアブル△ 500倍 	<p>各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。</p> <p>夏まき栽培で被害が大きく、夏から秋にかけて高温多雨の年に多発する。</p> <p>薬剤は表層10～15cmの土壌と十分に混合する。</p> <p>△ 2 L/セル成型育苗トレイ (30×60cm、土壌量約2.5～7L)</p>

ハクサイ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
軟腐病	播種時	・低湿地での栽培をさげ、排水を良好にする。	病原細菌は茎葉の傷口から感染する。 夏～秋にかけて高温多湿の年、秋まきに多発する。台風の後には多発しやすいので、台風直後には薬剤散布を励行する。降雨直後の作業は発病を助長する。 *野菜類での登録
	生育期	1. キスジノミハムシ、コオロギその他の害虫を駆除する(害虫の項参照)。 2. 台風や強い風雨など多発が予測される場合には、次の薬剤のいずれかを予防散布する。 カセット水和剤 1000倍 キノドーフロアブル 1000倍 ナレート水和剤 600～1000倍 Zボルドー(水)* 500倍 3. 発病株はすみやかに処分する。	
モザイク病・えそモザイク病	生育期	1. 播種後30日間寒冷紗を被覆する。 2. シルバーマルチ(ムシコン等)やマルチフィルムを用いてマルチ栽培する。 3. アブラムシ類を防除する(アブラムシ類の項参照)。 (夏から秋にかけて高温、乾燥の続く年、秋まきに多発する。マルチ栽培では高温障害に注意する)	アブラナ科野菜およびその他多くの作物、雑草などに広く発生し、アブラムシ類によって媒介される。 えそモザイク病は葉に多数のえそ(小黒点)を生じ、べと病と誤認しやすい。
アブラムシ類	播種時	・寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。	アブラムシは汁液を吸収して加害するだけでなく、ウイルス病を媒介するので、幼苗期の防除を徹底する。 △幼苗期に使用すると薬害が生じる事がある。
	定植時	・次の薬剤を植穴に施用し、土と混ぜる。 モスピラン粒剤 1g/株	
	生育期	・生育初期は定期的に、その後は発生に応じて次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000～3000倍 オルトラン水和剤 1500～2000倍 モスピラン顆粒水溶剤△ 2000～4000倍	
カブラハバチ	生育期	1. 被覆により成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤△ 4000倍	ニホンカブラハバチとカブラハバチの2種が多い。 △幼苗期に使用すると薬害が生じる事がある。

ハクサイ (野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ	定植期	1. コナガコンープラス◇のいずれかの剤を、作物の上に設置する。 ツインチューブ製剤 100～120本/10 a ロープ状製剤 20～40m/10 a 2. 次の薬剤のいずれかを植穴土壌混和する。 オルトラン粒剤 3～6kg/10 a (1～2g/株) モスピラン粒剤 1g/株	・発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 #オオタバコガ、ヨトウムガに対する登録も持つ。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタプロン乳剤 2000倍 アフーム乳剤 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 ディアナSC 2500～5000倍 パダンSG水溶剤 1500倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 マッチ乳剤 2000～3000倍	抵抗性を獲得しやすいので同薬剤・同系統の薬剤を連用しない。 *野菜類での登録
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 オルトラン水和剤 1500～2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 1000～2000倍 オルトラン水和剤 1500倍 サブリーナフロアブル 1000倍	薬剤は葉裏に丁寧に散布する。 老熟幼虫は薬剤が効きにくい。

ハクサイ (野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハスモンヨトウ	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。</p> <p>2. 幼虫若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アタブロン乳剤 2000倍</p> <p>フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍</p>	春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬以降である。時に大発生となる。
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	育苗後期～定植時	<p>・ 次の薬剤のいずれかを処理する。</p> <p>アルバリン粒剤 植穴土壌混和 #3 3 g/株</p> <p>スタークル粒剤 植穴土壌混和 #3 3 g/株</p> <p>プレバソンフロアブル5 セル苗等に灌注 #1、#4 100倍</p> <p>プレバソン粒剤 株元散布 #5 1 g/株</p> <p>セル苗等に散布 #2、#4</p> <p>モスピラン粒剤 株元散布 #6 0.5 g/株</p>	<p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#2セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り50g。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#3定植時</p> <p>#4育苗期後半～定植当日</p> <p>#5育苗期後半～定植時</p> <p>#6定植前日～定植当日</p>
	幼苗期	<p>・ 次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アクセルフロアブル 1000倍</p> <p>スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍</p> <p>チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍</p>	夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。幼虫が芯部に食入してからは防除が難しいので、早期に防除する。 *野菜類での登録
ネキリムシ類		・ 発生量は多くないので土を調べ、幼虫を捕殺する。	
	定植時	<p>・ 次の薬剤を施用する。</p> <p>ダイアジノン粒剤10 3kg/10a</p>	
	生育期	<p>・ 発生を見たら次の薬剤を株元に施用する。</p> <p>デナボン5%ベイト(粒) 3～6kg/10a</p>	

ハクサイ (野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
タマナギ ンウワバ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤 2000倍 マブリック水和剤1000～2000倍 	
キスジノ ミハムシ	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発芽直後から本葉7～8葉期まで次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 サイアノックス乳剤△(成虫) 1000～2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 	△幼苗期および結球期直前は葉害の恐れがあるため使用しない。
コオロギ類	播種後または生育初期	<ul style="list-style-type: none"> 次の薬剤を施用する。 ネキリエースK(粒) 3kg/10a 	
その他の病害虫		ヤサイゾウムシ	